

編集後記

あけましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しく願い致します。令和になって初めての新年を迎え、皆様のご多幸を祈念致します。今年も施工物件など社内の情報を発信して、もっと高藤建設を知って頂きたいと思えます。

高藤建設から広がるコミュニケーションマガジン

藤友

TOH YU

VOL
413

2020
NEW YEAR



人と環境の未来をみつめて
高藤建設株式会社

〒800-0055 北九州市門司区東新町1丁目1-30
TEL (093)381-0461 FAX (093)381-0543

巻頭特集

新年のご挨拶

第75期経営方針

あけまして おめでとうございます

本年もよろしくお願いいたします。



news
01

第75期が
スタートしました。



今期の
経営方針を
発表します。

代表取締役
高藤 元太郎

第75期経営方針

令和の時代

新

新しい時代に対応

令和という新しい時代を迎えました。目まぐるしく変化する激動の現代社会、従来の思考、方法だけでは存在できなくなります。ある日、突然存在価値をなくす業種もあります。経営とは、環境の変化に対応する技術であると言われていたように時代の変化に適合出来なければ亡びることになります。この世界を支配する「崩壊の定め」は何もしなければものごとは全て「古び」「錆びつき」壊れていくという法則です。

「温故知新」古きをたずねて、新しきを知る。変わるべきものと変えないもの、常に移り行くことを念頭に心機一転チャレンジします。

信

商品を売る前に信用を売る

信とは、誠実なことという意味であり「信用」「信頼」「信義」など全ての原点であるといえます。政治も経済も教育も「信」なくして成り立ちません。経済でも商取引の基本です。「人と人」「企業と企業」「信用」「信頼」「信義」がなければ始まりません。我々の建設業では、商品を見て購入するのではなく、今から建物を造るのですから、なおさらです。「商品を売る前に信用を売れ」という由縁です。

人口減少社会、縮小思考、ユーザーが選べる時代は特に大切です。創業の原点である建設業を通じて社会の役に立ち企業の社会的責任を果たすこと。社員が誇りを持てる我が社の創造へ精進します。

心

現実とは心の現れ

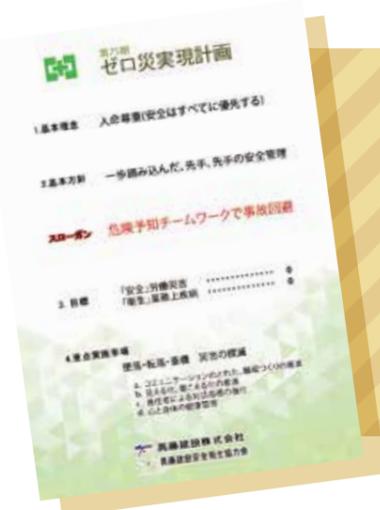
現実と精神で分けると、現実とは形があり肉眼で見ることが出来ます。精神は「心」や「魂」の様に形がなく、肉眼では見ることが出来ません。しかし「唯心所現」とあるように心と現実とは密接に係わっており、この現実社会は我々の心が反映しています。物質やお金と魂や心ということでもあります。

物で栄えて、心で滅びるといわれていますが、「物」と「心」のバランスが大切です。以前は「物」より「精神」の方が先行した時代もありましたが、現代は物さえあればお金さえあればという傾向です。勿論人間が生きていくために物やお金は大切ですが、モノと心の調和がとれた社会をめざす必要があります。それが幸福な人生を送ることです。自分も大切ですが他人も大切に、心豊かな社会、明るい職場を目指しましょう。

news
02

目標達成・安全祈願を 行いました。

戸上神社で安全祈願を行ったあと、各部門長が75期の部門目標を発表しました。今期も目標達成とゼロ災継続達成に向けて、全力でチャレンジしましょう。



PICK UP!

TAKAFUJI お仕事図鑑

施設・店舗・工場等の最新の施工実績を、各担当者より紹介します。

▶ スパイシーモール



南国風のスタイルで 集客効果をアップ!

DATA



所長
江木 一雄

建設部所属

当物件は、お客様がつい足を運びたくなるようなショッピングモールをコンセプトに建設しました。外観は、白を基調に木目調のルーバーなどをポイントで配置し、夜はヤシの木がライトアップされ南国の雰囲気が漂います。内部は、ナチュラル色のユニークな壁面家具や電照サインが配置された、木のぬくもりを感じる空間となっています。お客様に末永く愛される建物になるようお祈りします。

■発注者/奥田金属株式会社 様、株式会社丸久 様 ■工事名/スパイシーモール門司新築工事 ■店舗開発/A DAY 商業開発株式会社 様 ■設計監理/株式会社木質設計事務所 様、株式会社アストア 様 ■工期/2019年3月1日～10月31日 ■規模/鉄骨造2階建 延床面積3,802.79㎡ ■所在地/北九州市

▶ 三島光産エンジニアリング棟・購買棟

エンジニアリング事業部厚生棟



購買事務所棟



重要拠点にふさわしい 品格のある建屋が完成!

DATA



所長
平湯 信志

建設部所属

古くから北九州市小倉南区下曽根地区の事業拠点の一つとして活躍してきた建屋の老朽化に伴う工事です。「業務効率アップ・企業のイメージアップ」をコンセプトとし、2棟を新築。外観は藍色をアクセントとし、白を基調とした内装で、清潔感のある事務所・休憩所が完成しました。下曽根地区の新たな事業拠点になることをお祈りします。

■発注者/三島光産株式会社 様 ■工事名/三島光産株式会社エンジニアリング事業部厚生棟・購買事務所棟新築工事 ■設計監理/高藤建設一級建築士事務所 ■工期/2019年4月1日～12月5日 ■規模/厚生棟:鉄骨造3階建 延床面積552㎡ 購買棟:鉄骨造2階建 延床面積368㎡ ■所在地/北九州市

PICK UP!

ただいま施工中

▶ 北九州湯川病院



現在施工中の物件を
各担当者より紹介します。

大規模な増築・改修工事。 ONE TEAMで取り組む!

DATA



所長
和田 宣明

建設部所属

現在増築棟は、基礎の埋戻し、土留め壁の躯体工事を行っています。2020年の5月末まで躯体工事が続く予定です。病院関係者のヒアリングも順調に進んでおり、モデルルームによる意見交換会も終盤に差し掛かっています。また改修棟は、内部解体を行っています。2020年より内装工事を行う予定です。どちらもこれから本格的な工事となりますので、気を引き締めてONE TEAMで頑張ります。

■発注者/社会医療法人北九州病院 様 ■工事名/北九州湯川病院移転増改修工事 ■設計監理/株式会社内藤建築事務所 様 ■工期/2019年3月28日~2020年11月30日 ■規模/増築部:鉄筋コンクリート造6階建 延床面積6,905.61㎡ 改修部:鉄筋コンクリート造7階建 延床面積9,546.15㎡ ■所在地/北九州市

▶ 門司港運ひびき畜産倉庫新築工事



完成に向け工期も残り僅か! 最後まで気を引き締めて。

DATA



所長
杉 直哉

建設部所属

現在、鉄骨工事が終わり、高さ4.5mの腰壁躯体工事を施工中です。壁を保護する補強の鉄板を躯体に打ち込むため、工程の調整が要となります。これからは、さらに作業に関する業種が増えていく予定です。関係各社と打ち合わせを行い、スムーズに施工できるよう、調整してまいります。完成まで、残り工期も僅かとなりました。最後まで気を引き締めて、より一層努力していきます。

■発注者/門司港運株式会社 様 ■工事名/門司港運株式会社ひびき畜産倉庫新築工事 ■設計監理/高藤建設一級建築士事務所 様 ■工期/2019年8月1日~2020年2月29日 ■規模/鉄骨造平屋建 延床面積4,269.35㎡ ■所在地/北九州市

タカフジ

ラボ

PICK UP CONTENTS

品質管理システム PQC 発表大会

普段携わっている日常業務改善の取り組みを評価する、品質管理システムPQC(Paperless Quality Control)発表大会が行われました。フェーズ1(本支店部門)、フェーズ2(工事現場部門)にて、以下の部門が表彰されました。



フェーズ1

クレーム要因になる漏水対策を 各現場で創意工夫!

努力賞 本社 建設部

建設部では近年、顧客からのクレームの中でも比較的高い「漏水対策」を年度品質目標に掲げ、最重要項目として取り組んできました。各現場でニーズに応じた創意工夫をし、努力をしてきたことで表彰頂きました。これからは各漏水対策をフェーズ2で情報提供、「C&C」に水平展開し、Drop Box等にて情報共有することで、若手の技術向上につなげたいと思います。

本社 松瀬

フェーズ2

製作・施工図面をクラウド保存 情報共有をスピードUP!

努力賞 九州日新アイランドシティ新築工事

担当した物件の施工計画、安全管理計画や業務改革について発表しました。ペーパーレスとして、情報共有・高速化のために製作・施工図面等をクラウドに保存。



iPhoneやiPadでの閲覧を可能にし、その場で職長等へメールで配信しました。

また施工品質目標は、キックオフ会議にてユーザーの考えを聞き出し、全スタッフで共有化。色々な技術意見等も提案され、良い結果に繋がりました。さらに、施工写真ソフト等を改善することで、撮影の忘れを解消。データ共有や業務時間短縮が可能となりました。今後もこの経験を活かしつつ、さらなる改善改革を行い、品質向上とシステム有効化に努めていきたいです。福岡支店 竹元

no.1

高藤 章雄

所属 ▶ 営業本部



- ① お客様や専門業者の人々との関わりから知識を集め、状況に合った最善策で課題解決にあたれること
- ② 4人の子供の成長を眺めること
- ③ ひとつひとつ丁寧に!より良く!

no.2

湯下 憲二郎

所属 ▶ 福岡支店



- ① 自分が設計した建物が形として残ること、地図に載ること
- ② 子供と遊んで過ごす時間
- ③ 「元気があれば何でもできる!」をモットーに、何事にも前向きに挑戦する!!

no.7

丸田 諒一

所属 ▶ 建設部



- ① 毎現場ごとで新しいことに取り組むことができ、そこで新しい考え方や知識を得られることです。
- ② 同期との飲み会
- ③ 任せてもらえる仕事を増やすこと。

no.3

上原 和彦

所属 ▶ ADD室



- ① 白紙の設計図から、実物の建物完成まで携われること
- ② 子供たちと一緒に遊ぶこと
- ③ 健康で、家族と一緒に過ごす時間を大切にすること

no.8

藤堂 真志

所属 ▶ 福岡支店



- ① 自分で考えたものが形になること
- ② 趣味をしている時です。
- ③ 体調と健康管理に尽くしたいと思います。

no.4

大江 邦彦

所属 ▶ 営業部



- ① 竣工後にお客様と笑顔で会話をする時です。
- ② ゴルフなかなか上達しないんですけど...
- ③ 資格取得するために頑張ります!今年一年誘惑しないでください。

no.9

村上 翔馬

所属 ▶ 福岡支店



- ① 多様な業者と関わり知見を広められること
- ② 自宅でゆっくり過ごすこと
- ③ 空を道とし、道を空とみる

no.5

森田 将之

所属 ▶ 大阪支店



- ① お客様からの「ありがとう」の一言
- ② 家族・仲間との時間
- ③ アグレッシブ

no.6

長野 雄一

所属 ▶ 建設部



- ① 自分の考えが形になり、完成した時の達成感
- ② 家族と過ごす休日
- ③ 仕事とプライベートの両立

no.10

伊藤 沙也香

所属 ▶ ADD室



- ① 仕事での建築・設計の知識が少しずつ増えていくこと
- ② 友達と会うとき
- ③ 出来ることを増やして自分の仕事に役立てたり、会社の助けになっていきたいです。

no.11

坂谷 奈緒美

所属 ▶ i-T開発室



- ① 現在取り組んでいるBIMを描くのが少しずつ速くなっていること
- ② パラエティー番組を観ること
- ③ 仕事と私生活のどちらでも健康に気を付けて過ごすこと

TAKAFUJI

年男 & 年女

パーソンズ

2020年に年男・年女を迎えた
社員11名をご紹介します。

- ① 仕事のやりがいは?
- ② 今、一番楽しいことは?
- ③ 今年の抱負は?

人生の壁 じんせいのかべ

諸行無常、常に移り変わり行くのがこの世です。人生の修業の場であり人間形成の道場であるという人もいます。自分自身を振り返っても常に試練や困難や問題等々の壁にぶち当たるのがたくさんあります。

もう一歩も前へ進めないことも、後ろへ退けないこともあります。しかし、その壁を破ることによりまた順調な航海を続けることができます。ですがやがてまた壁に遭遇します。

人の一生は常にこの壁との戦いの様な気がします。家庭でも企業でも社会でも絶えず種々の問題が発生することになります。それをひとつひとつ対処し航海を続けることになります。

ある先人が、自分の人生を振り返り「平穏な航海の日が幾日あったかなあ」「それを乗り越えることによって自分自身の成長になり、生きる糧になった苦勞もしたけどいい人生だった」と言っていたのを思い起こします。そして最後に自分は常に壁にぶち当たった時に、子供の頃、自転車に乗れる乗れないという二者択一ではなくて、乗れる「寸前」というのがある。水泳でも泳げる泳げないだけでなく、泳げる「寸前」というのが必ずある。だから自分は試練や困難と戦う時、常に「寸前」にあると思って自分を励ましたといわれましたが、それはあきらめずにチャレンジ出来たのだと感じました。

それが人生を生き抜く力だと思います。

人生は壁との戦いです。



取締役会長 高藤 昌和

vol
02

あれから47年

入社して40年以上たった、ベテランの社員にインタビューしてみました。

22歳で2級建築士、
27歳で1級建築士に

入社したのは、第一次オイルショック勃発の昭和48年(1973年)です。あれから色々な経験をさせていただき、いろいろな出来事がありました。



▲41歳、視察のためドイツに向けて出発

38歳(1993年)の時には、株式会社マツモト様の印刷工場設計に際し、使用機器確認のため、ドイツにある印刷機のハイデルベルク社と、関連機器メーカーのあるハノーバーを訪問することになりました。訪問先では、ドイツの「マイスター気質」に触れさせてもらうことができ、良い経験になりました。

ドイツのメーカーを訪問！
貴重な機会になりました。

高等学校を卒業後、2級建築士を受験するには、卒業後3年の実務経験を要しました。ようやく21歳の時に受験し、22歳で資格登録しました。「これで建築屋として生きて行けそうだな」と、実感したことを覚えています。次は、1級建築士に向けて4年の実務経験を積みました。そして、26歳で受験、27歳で資格登録となりました。これも諸先輩方の御教示の賜物と、今でも深く感謝しています。

今回のinterview //

1973年入社 47年目

清水 敏己

本社 福岡県出身
営業本部 企画開発担当

コンピューターの導入に携われたこと

41歳(1996年)の時、コンピューターの1人1台体制に携わりました。当時のパソコンは1台30万円以上という高価なもので、OSはウィンドウズ3.1、CPUは100MHzで、ハードディスクは1GB、メモリは16MBと、今見ると信じられないスペックです。

私自身、コンピューターとの触れ合いはもっと遡り、1985年にはオリベッティの磁気カードを使った計算機で、元利均等割賦金を算出していました。それから、MS-DOS・ウィンドウズ3.1と付き合ってきました。

この他にも、もっと多くの出来事がありますが、私にとって最も深い出来事を、今回ご紹介いたしました。日頃より、ご支援いただいている皆様に深く感謝いたします。



▲ドイツにて、印刷機などを見学中の様子



▲1996年当時のオフィス